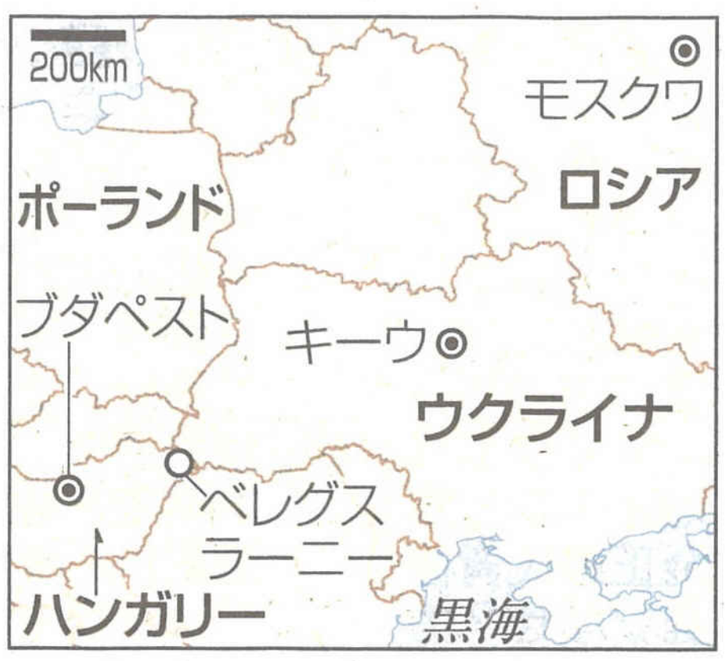
ウクライナ隣国でAMDAと活動の医師

戦争の悲惨さ 日本人も考えて

避難民支援 寄付呼びかけ

徳島県吉野川市のNPO法人「TICO」代表理事の吉田修医師(63)は、ロシアのウクライナ侵攻後、隣国ハンガリーで避難民の医療支援に携わった。帰国後も「日本人もこの戦争の悲惨さを考える必要がある」と訴え、日本に逃れた避難民とのオンライン健康相談などを検討している。（1面関連）



アフリカのザンビアなどで医療支援を行ってきたTICOは、2月にロシアが侵攻を始めた後、国際医療援助団体「AMDA」（岡山市北区伊福町）からの呼びかけで合同医療チームを結成。チームの医師や看護師ら計9人が3月上旬から約1カ月間、ハンガリーで支援活動を行った。吉田医師は現地時間の3月10日にハンガリーに到着。ウクライナ国境に近いベレグスラーニーを中心に15日から6日間、避難民支援に当たった。避難所は逼迫した状況ではなかったが、出会ったのは女性と子どもばかりだった。

ハンガリーのベレグスラーニーにある仮設診療所で、ウクライナから避難してきた女性（右）を診療する吉田修医師（左）＝3月（AMDA・TICO提供）

「夫や父親を戦場に残して国外に逃れるのは、どんなにつらいか」と吉田医師。子どもの前では泣いた顔を見せまいと、気丈に振る舞う母親の姿が印象に残ったという。「懸命に生きようと前を向く姿はたくましかった」と語る。ハンガリー側の避難民の受け入れ態勢が整っていたことにも感心したという。

TICOは独自に、避難民を支援するための寄付を呼びかけている。「募金への協力など、できることは限られるが、日本人も戦争の悲惨さを考えて」と吉田医師。戦闘が終結すればウクライナでの医療支援も行いたいと話した。

寄付に関する問い合わせはTICO事務局（0883㊷2271）。